Vol.20　コードトーン・アルペジオを指板全体で弾いてみる　～その 2～

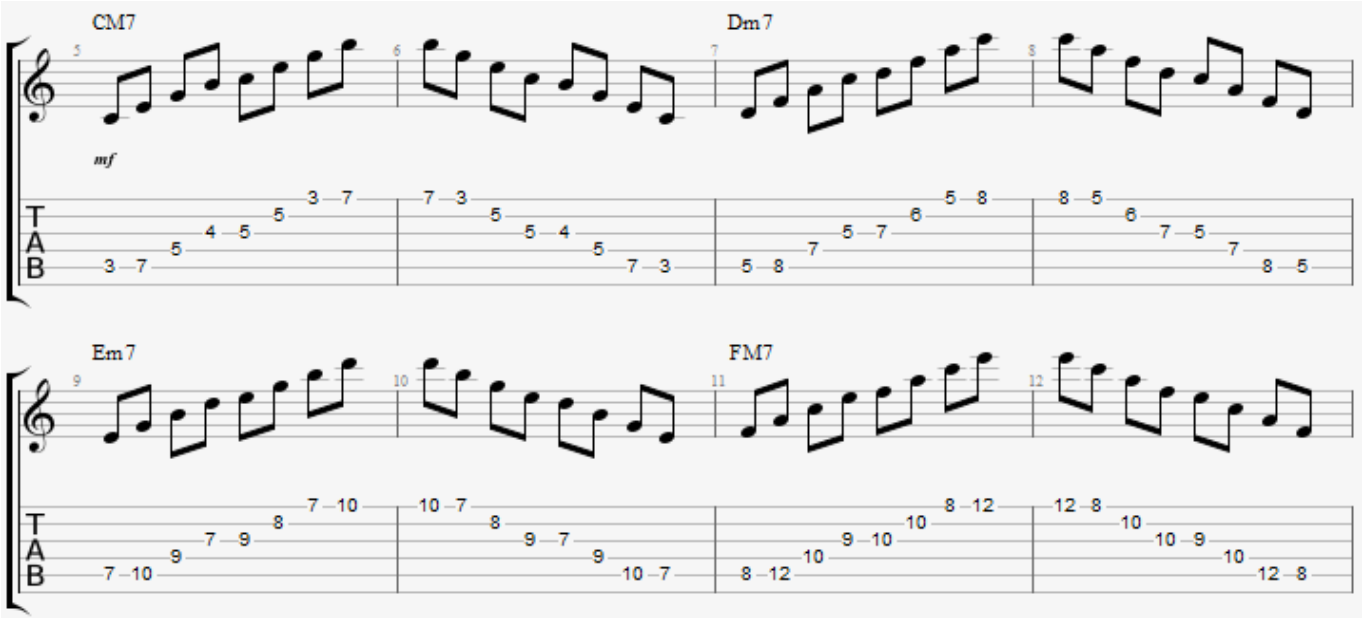
では、vol20、始めていきましょう。

引き続き、コードトーン・アルペジオのまとめです。

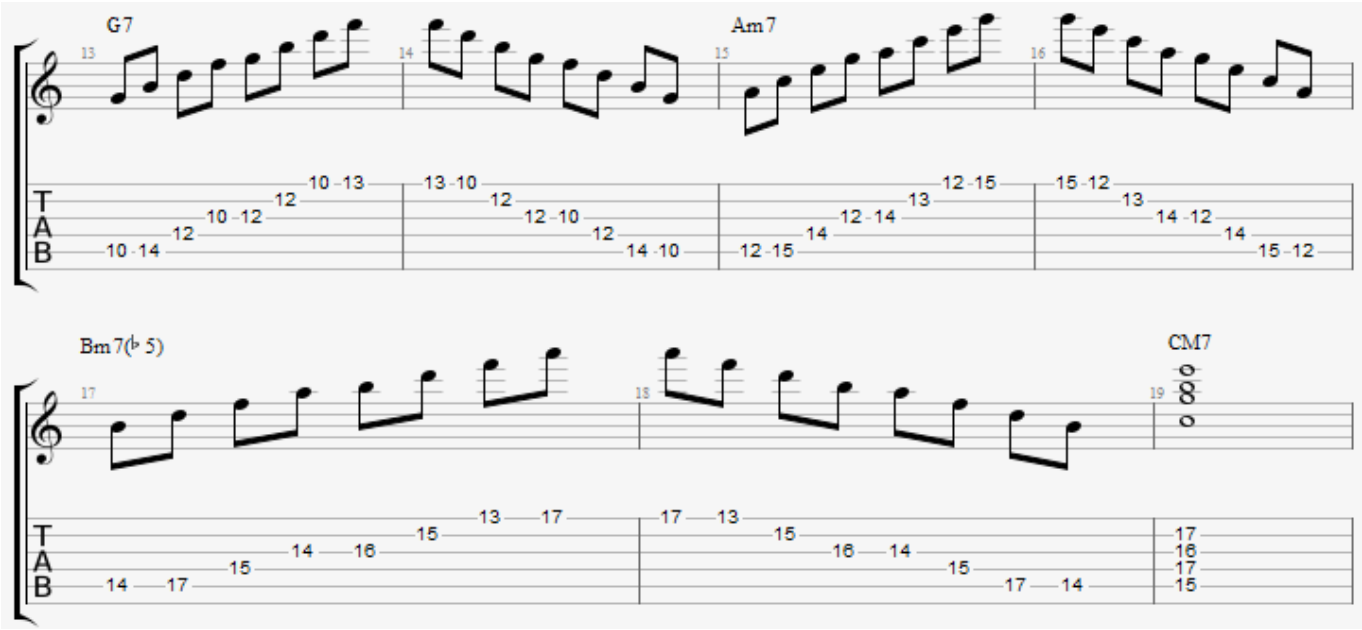
前回と同じく、C キーのダイアトニックコードを弾いて行くのですが、今回は 5 弦ルートですね。

早速、譜例に行きましょう。

譜例 1



譜例 2



Copyright (C) 2016 shunichi onuma All Rights Reserved

複雑そうな見た目とは裏腹に、一度慣れてしまえば、そう難しいものでもありません。

結局、ダイアトニックコードとして出てくるコードの種類は4種類なので
(XM7、Xm7、X7、Xm7(♭5)、※4和音の場合)、4パターンのフレーズを弾いているだけになります。

後は、前回の譜例もそうですが、Cキー以外のキーでも弾いてみて下さいね。

例えば、新しい楽曲を弾く時に、その曲のキーに合わせたスケールや、コードトーン・アルペジオの練習を前もってしておくと、全体の把握が驚くほどスムーズになります。

最後に、気を付ける事として、こう言った練習は指の動きに注視しがちですが、基本的な和音構造を弾いているわけなので、やはり良く聴くことが重要です。

ここで耳が出来てくると、段々と、楽器を持っていなくても、コードやスケールの判別が出来るようになってきますので。

ではまた次回。

ありがとうございました。

大沼

Copyright (C) 2016 shunichi onuma All Rights Reserved